

お知らせ

INFORMATION

No.2022-34

2022 年 10 月

病体生理研究所

新規受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託項目について】

◆ 歯周病唾液検査〔30131〕 …検査実施施設 M

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2022 年 11 月 1 日（火）受付分より

【新規項目情報】

項目名称	歯周病唾液検査
コード	30131
検体材料	唾液 1.0mL ※専用容器（歯周病唾液採取キット）にて採取（容器は2本提出になります）
保存安定性	絶凍
所要日数	3～5 日
実施料（区分）	未収載
ご依頼方法	O 伝票または H 伝票をご使用ください。 その他項目欄に「歯周病唾液検査」とご記入ください。
備考	※ 必ず専用容器（歯周病唾液採取キット）を用いて採取し、ご提出ください。検体の採取方法につきましては、次ページをご覧ください。また、採取時にはキット中に説明書を同封しておりますので、よくお読み下さい。 ※ 専用容器のご注文は物品注文書のその他記入欄に「歯周病唾液採取キット」とご記入下さい。 ※ 検査結果は「歯周病唾液検査」報告書でご報告させていただきます。

〔報告形態〕

名称	報告様式		検査方法	基準値
	測定値	判定		
唾液中 Hb (ヘモグロビン)	μg/mL	(-) または (+)	LA 法	1.70 未満 μg/mL
唾液中 LD	U/L	(-) または (+)	IFCC 標準化対応法	217 未満 U/L
リスク総合判定.	テイリスク テイチュウリスク チュウコウリスク コウリスク		低リスク 低～中リスク 中～高リスク 高リスク	

* 報告値が「判定不能」「検査不能」「量不足」「検体無し」となる場合もございます。

歯周病は、口腔内に生息する 300～500 種類もの歯周病菌によって引き起こされる歯茎の炎症です。日常生活習慣がこの病気の発症に大きく関係していることから、最近では生活習慣病の一つと考えられています。厚生労働省の調査では、40 歳以上の 8 割が歯周病にかかっていることが分かっています。一度、歯周病になってしまうと、十分な治療をしても完全に歯周組織は治りません。そのため、出来るだけ早いうちに処置を施し、進行を遅らせて歯を長持ちさせることが大切です。当該検査は唾液中の Hb（ヘモグロビン）や LD（乳酸脱水素酵素）の濃度を測定することにより歯周病のリスクを「低」「低～中」「中～高」「高」の 4 段階に 分けてスクリーニングすることが可能です。

正しい^{だえき}唾液のとり方

必ず、この説明書を読んでから採取してください

ご注意

- 透明容器の液を捨てたり、飲んだりしないでください。
- 透明容器の液が誤って目や口、皮膚に付いたときは、水でよく洗い流してください。
- スポイトを直接口の中に入れないでください。
- 唾液をとる目的以外には使用せず、直射日光を避け、室温で子供の手の届かないところに保管してください。
- 使用後のコップやスポイト（プラスチック類）を廃棄する際は、各自治体の分別法にしたがってください。

セット内容

説明書	ガム	コップ	スポイト
ラベル (2枚)	透明容器 (液体入り)	黄色容器	提出用袋

! 唾液採取前 2 時間は、飲食および歯みがきはしないでください。
とる前には、口内を水ですすいでください。

1. ガムを噛んで唾液を出す

コップを十分に開き、約5分間ガムを噛みながら、唾液をコップに出してためる。

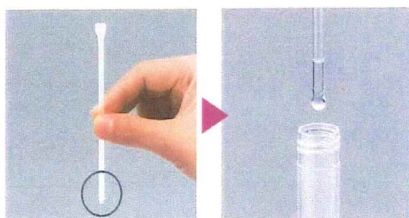
唾液の量：コップの底面が浸るくらい

2. 2本の容器に唾液を入れる

透明容器 (液体入り)

スポイトを用いて、透明容器に唾液を **1 滴** 入れて、キャップをしっかりとしめる。

- ① 唾液中にスポイトの先を入れ、真ん中を強くつまむ。
- ② 力を緩めると、唾液がスポイトの先に吸い上がる。
- ③ 再度つまみ、透明容器の中へ **1 滴** 入れる。



黄色容器

コップから直接、残りの唾液を **黄色容器の半分程度** 入れて、キャップをしっかりとしめる。

コップの折り目を注ぎ口にして入れる。



3. 氏名等を記入し提出用袋に入れる

2枚のラベルに氏名・採取日等を記入し、透明容器と黄色容器に貼る。



提出用袋に氏名を記入し、容器を2本入れて

すぐに提出。

※提出までは冷蔵で保存



※患者様から検体を受け取りましたら、そのまま**凍結して**ご提出ください。

【歯周病唾液検査の判定基準】

歯周病リスク		LD (乳酸脱水素酵素) 検査	
		(-)	(+)
Hb (ヘモグロビン) 検査	(-)	低 リスク  現在の歯周病リスクは低いですが、定期的に検査を受けましょう。	低～中 リスク  歯周病のリスクがあります。歯科医師の診断を受けることを推奨します。
	(+)	中～高 リスク  歯周病のリスクが高いです。なるべく早く歯科医院を受診して精密な検査を受けることを推奨します。	高 リスク  歯周病がかなり進行している可能性があります。歯科医院を受診して適切な処置を受けることを推奨します。

【判定コメント】

判定	コメント
低リスク	低リスク：現在の歯周病リスクは低いですが、定期的に検査を受けましょう。
低～中リスク	低～中：歯周病のリスクがあります。歯科医師の診断を受けることを推奨します。
中～高リスク	中～高：歯周病のリスクが高いです。なるべく早く歯科医院で精密検査を受けましょう。
高リスク	高リスク：歯周病がかなり進行している可能性があります。歯科医院を受診しましょう。

※専用図形報告書には、検査結果により上記の各コメントでご報告致します。

各判定の受診者への詳細なコメントは、「歯周病唾液検査報告書」の裏面をご参照下さい。

【「歯周病唾液検査」報告書（見本）】

歯周病唾液検査

受診者名 性別

年齢 性別

検査日 受付日

検査時間 検査場所

歯周病リスク

*** あなたの歯周病リスク ***

低リスク

低～中リスク

中～高リスク

高リスク

コメント

Hb(ヘモグロビン) / LD(乳酸脱水素酵素)の判定結果

検査項目	判定	測定値
唾液Hb	判定	測定値
唾液LD	判定	測定値

歯周病は、細菌の感染によって引き起こされる炎症性疾患で、進行すると最終的に歯を失ってしまいます。25才以上のおよそ8割で歯周組織に何らかの症状が認められると言われており、生活習慣病の一つとされています。

あなたの「歯周病リスク」を、唾液で簡単にチェックできる検査です。

唾液中のHbやLDを測定すれば、歯周病のスクリーニング検査が可能です。リスクが判定されます。この検査は歯周病のリスクを判定するための簡単な検査です。

Hb (ヘモグロビン) → 歯肉の出血
LD (乳酸脱水素酵素) → 歯肉の炎症

検査判定フロー

歯周病リスク	唾液LD検査	
	陰性 (-)	陽性 (+)
唾液Hb検査	低 リスク 現在の歯周病リスクは低いですが、定期的に検査を受けましょう。	低～中 リスク 歯周病のリスクがあります。歯科医師の診断を受けることを推奨します。
	中～高 リスク 歯周病のリスクが高いです。なるべく早く歯科医院を受診して精密な検査を受けることを推奨します。	高 リスク 歯周病がかなり進行している可能性があります。歯科医院を受診して適切な処置を受けることを推奨します。

※「低～中リスク」以上の場合は、歯科医師の診断を受けて適切な処置を受けることを推奨します。また、歯肉の炎症が持続的に続く場合は、歯肉の炎症を抑制する必要があります。

唾液Hb検査

唾液LD検査

Hb (ヘモグロビン)は血液中の赤血球に含まれるタンパク質です。唾液中のヘモグロビン濃度を測定することで、歯周病の進行に伴う歯肉からの出血量を測ることができます。

LD (乳酸脱水素酵素)は歯肉の細胞が損傷を受けた際に血液中に放出される酵素です。唾液中のLD濃度が高ければ、歯肉の炎症により細胞が損傷を受けていることがわかります。

監修：岩 義孝 歯科大学歯学部 歯周病学講座 花田 雅弘

検査結果は「歯周病唾液検査」報告書でご報告させていただきます。

歯周病のリスクを「低」「低～中」「中～高」「高」の4段階に分け、その判定と測定対象検査のHb検査とLD検査の結果をご報告致します。裏面には、受診者に対して、「歯周病唾液検査」の【判定フロー】と【報告値の見方】を掲載しています。

以上